

もてもて通信

2021新年号

2021年も、どうぞよろしくお願ひいたします！

10月に「オータム号」を出してから、また、3ヶ月が過ぎてしまいました。コロナに振り回された2020年が終わり、新たな年となりました。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。2021年、皆さまお一人お一人に、希望の光が射しますように心からお祈り申し上げます。



年明けから感染拡大がより広がって、兵庫県には緊急事態宣言が出され、神戸伝道区の教会では、公開の礼拝の自粛が続いています。徳島でも感染者数が増えてきて、1月17日の礼拝から、陪餐なしの礼拝になってしまいました。

どうぞみなさん、「ステイホーム」「ステイセーフ」そして「ステイウォーム」でお過ごしください。

11月15日 主教巡回

毎年恒例の主教巡回日でした。神戸から、小林尚明主教と、恵子さんが来てくださいました。コロナ禍なので、愛餐会はありませんでしたが、記念撮影をしました。オンラインで参加されていた方もいらしたので、ユニークな写真になりました。



2020 クリスマス

11月29日からアドヴェントに入りました。

今年も、三木あさ子さんが礼拝堂のアドヴェントクランツとクリブを、武市正大さんが駐車場入口のクリブを飾ってくださいました！



そして、今年は宮田家の家宝の(?) クリスマスクリブも玄関にかざり、クリスマスツリーにはスイスから送っていただいたサンタクロースのチョコレート飾りを飾りました。



今まで、世の中の方が、教会よりクリスマスに浮かれている感じがしていましたが、コロナ禍のクリスマスは、苦しみの中で、救い主を待ち望む気持ちが切実になりました。

寒く、暗い中、貧しい羊飼いや異邦人である博士たちに迎えらるイエスは、まさに、災禍にある私たち、異邦人である私たちの希望の光です。

12月20日 9 Lessons & Carols (9つの聖書日課とキャロル)



ゲストに、ホセ・ルーカスを迎え、シューベルトの「Ave Maria」を歌っていただきました。ウソです。ごめんなさい。Lukeユウゾウ執事が歌いました。Youtubeにアーカイブが残っていますので、興味のある方は、そちらからご覧ください。

https://youtu.be/Nvf_Fi_u5hk

12月24日 クリスマスイブ礼拝

12月25日 クリスマス礼拝

どちらの礼拝でも、聖歌番号のアナウンスをし、聖歌集を配り、全節オルガン演奏しました。

まだ、徳島では感染者が少なかったため、それが可能でした。

24日は礼拝堂に12名、オンラインで3名参加されました。

25日はオンライン参加は無く、5名での礼拝でした。

礼拝後、2021年度の教会委員選挙の開票を、池尻二美さん、柳本陽子さんと私宮田美樹の3人で行いました。

そして、2021年度の教会委員は、

武市正大さん、古本真二郎さん、三木あさ子さん、元木園恵さんの4人です。1年、よろしくお願いいたします！



2021年1月

新しい年になりました。まだ、予断を許しません、良い年となるといいですね！

1月3日の聖餐式時には、ちょっと変わったゲストが来ていました。1羽のすずめが玄関から入ってきて、礼拝中も騒ぐことなく、芳我司祭の説教も聞いているかのようでした。出られなくなってしまっていたので、礼拝後、排煙窓を開けるボタンを押しましたが、開くまで時間がかかっている間にいつのまにかまた、玄関から出て行ったようでした。



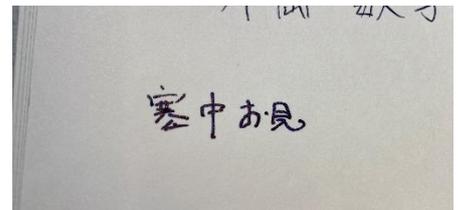
みやた せんせえ より

「文系？理系？いや、それ以前の問題です。」

書字障害という障害を持っていると、とにかく色々大変です。ペンを持って字を書くという行為は、頭の中で文章を考えた上で、文字を思い起こし、それを手を動かして文字にするという最低でも三段階の行為が伴います。実際にはさらに途中に細かな行為、例えば「てにおは」が微妙に違えば文章を差し替えるように頭の中で組み立て直すという、行ったり来たりの思考作業が発生します。文字を書くにあたっては、文字の構造であるヘンとつくりの位置関係を思い起こさないとなりません。とにかく複雑すぎて、字を書く行為そのものに意識が向いてしまうと、今度は思考が止まってしまい、書きたいことが思い出せません。思考と行為がどうやっても一致することが難しいのです。

運動音痴とも関連があるように感じています。運動は概ね不良です。思考と行動を一致させることがどうやっても上手くいきません。ボールを真っ直ぐ投げることが出来ません。飛んできたボールを打つことも出来ません。どうやったら上手に出来るのかも全くわからないままです。それでもJリーグサッカーの指導者資格と審判資格を取得しました。実際のサッカーそのものはやっぱり不得意です。唯一出来るのはスキーとスノーボードです。唯一ではなく唯二かも。

先日、年賀状の礼状を書くためにペンを取りました。「寒中お見舞い申し上げます」と書きたかったのですが、一文字目の「寒」という文字がちゃんと書けず、一枚目からはがきを無駄にしてしまいました。結局、妻に書いてもらい、私は署名だけを書いてはがきを投函しました。左右が逆になったり、ヘンとつくりが逆になるのはいつものことです。



いま、この文章を書いているのはパソコンです。パソコンが無ければこのような文章を書くことも出来ません。思考がそのままに近い状態で文字化されるというのは、ストレスが少なく、思いのままに書くことが出来ます。とは言ってもこのパソコンでの文字化作業も、ストレスからの解放が目的ですから、文字入力にはATOKという日本語入力ソフトを使わないとストレスだらけで、やはり文字化することが出来ません。ATOKとは1987年からの付き合いですから16才の頃から約34年もの間、パソコンでの文字入力に助けられています。

しかし、当時も今も手書き文字での提出物が多い現実には、つねに困難がつきまっています。ウィリアムズ神学館でのテストもすべて手書きでした。ほとんどの解答はひらがなとカタカナばかりの解答用紙だったと思います。事前にテスト内容がある程度知らされているテストに関しては、あらかじめ解答文をパソコンで作ってイメージで記憶します。それを書き初めのように何度も書き出し、テストの時には、イメージで文章を書き出すという、テストを受けているのか、記憶テストを受けているのかわからない状態になっていました。

物語がわからない、字が書けない、文章という仕組みとの相性の悪さ、なかなかやっかいな世界で今日も生きております。

2020年は、思いもかけず、世界中が一変した年でした。ロックダウンされ、ゴースタウンのように誰もいないニューヨークやロンドンの街、街行く人が皆マスクをつけて往来している映像は、SF 映画のようでした。人とハグしたり、握手したり、ハイタッチすることも許されず、距離を保つことが日常になりました。急激な変化はなかなか、ついていくのが難しいですが、「ついていく」のではなく、常に好奇心を持って取り入れていくくらいの感じでいけたら、人生が豊かになるのかもしれない。 マルセラ宮田美樹 2021/1/27 発行